

## 日本保健物理学会「教員等協議会・若手研・学友会」代表者会議（第18回）

日時：令和4年2月17日（木）9時-10時

参加者：（教員等協議会）飯本（理事）、安岡（理事）

（若手研）迫田（理事）、廣田（参与）、辻、渡邊

（学友会）仲宗根、小池、福田

概要：

今後の学会関連行事

- ICRP2023
- 2022年6月シンポジウム
  - 6/17~29 または 27~29 日での開催の可能性が濃厚であったが、直近の理事会で土曜日を期間に含めたいという意見もあり、現在再調整中
- 2022年12月頃 管理学会との合同大会

今後の活動指針

- ICRP2023 を目標とし、6月のシンポジウムでは単発で終わらないような企画が良い
- 若手研メンバーの馴染みのないことを軸に活動する場合は連携相手の選定が重要

ICRP2023

- セッションテーマ案
  - 年明けに募ったが現状では意見は限定的。幹事団である程度決めてしまう必要があるかもしれない
    - ◇ 低線量放射線の健康リスク、新線量概念への対応、NORMによる被ばく
- 国際連携の良い場となる。
  - 現在、韓国とつながりが強い。韓国は医療系メンバーも多く、人体影響などにも詳しい。保物学会の弱い分野をカバーできる可能性あり
- 他学会との連携の可能性
  - 放射線影響学会若手部会からの新年挨拶メールあり
  - ICRP 内部被曝勉強会への影響学会からの参加者あり
- 若手勉強会の活用
  - 内部被曝に関する若手勉強会の終了後、新たなテーマで勉強会を立ち上げるのであれば、ICRP2023 や関連イベント（シンポジウム、研究発表会など）を意識した

ものであっても良いかもしれない

#### 新年度活動への提案

- 2022年12月頃の合同大会での若手、学生向けのフランクな発表会
  - 内容
    - ◇ 座長や発表などの経験が目的。
    - ◇ 完成していない研究、研究がない場合には自己紹介など。
  - 参加者募集方法
    - ◇ 部長や指導教員に学会理事から呼びかけ、若手の参加を促す
      - 就職する学生にこそ、学会参加を経験させたい。
  - 上手に行うための工夫
    - ◇ 研究相談会のようなタイトルにして敷居を下げた方が良くも
    - ◇ 座長など、発表以外の経験もさせたい
    - ◇ 就職活動でも学会発表の有無が聞かれることなどをアピール
      - 若手研主査賞のようなものを用意するのもあり。

#### 予算案

- 対面活動費用
- 若手学生向け研究発表練習会を開催するなら、その旅費、授賞資金

#### 学会連携 WG

- 安全管理学会のセッションにて若手の活動紹介
  - 外間氏が準備を進めている

#### IRPA YGN

- 2022年4月以降の日本代表者を選定する必要がある。

#### 次回

- 3月24日（木）9:00-10:00

以上